

共に前へ

佐世保市立宮中学校
学校日より No. 11
発行日 R6.5.31
発行者 中野 一史

～昨日までの自分（自分達）を超える～

- 【重点目標】めざす生徒の姿
- ◇学ぶ楽しさを「自ら学ぶ力」につなげ、目標を立てて学習に取り組む生徒
 - ◇やるべきことに、我慢強く、最後まで取り組む生徒
 - ◇みんながリーダー・みんながフォロワーとしてより良い学校・学級づくりに取り組む生徒
 - ◇自らの進化・成長に向け、「いのち」を輝かせて諸活動に取り組む生徒

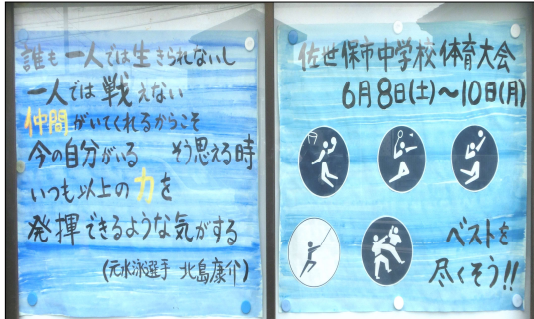


○宮中ホームページアドレス

<http://www.city.sasebo.ed.jp/jh-miya/>

いのちかがやく強調月間

明日、6月1日は佐世保市にとって「いのちを見つめる日」です。今年度からこの6月を、子どもたちが自ら命を輝かせてほしいという願いを込めて「いのちかがやく強調月間」に名称が変更されました。期間中は、本校では道徳の公開授業、メディア講演会等を計画しています。生徒たちには、この期間の取組をとおして「命を大切にすること」「他人を思いやること」について考えを深め、自分の心を見つめ直す機会にしてほしいと思います。また、期間中は保護者・地域の皆さんに、少しでも、生徒たちの「一生懸命に学ぶ姿」や「生き生きと活動する姿」を観ていただけたらありがたいです。
※期間中の取組については、案内文書を各家庭に送付しておりますが、ホームページにも掲載しておりますので、ご確認ください。



いのちの講話

5月31日（金）の1校時、私（校長）から「いのちの講話」として、次の話をしました。

「いのちの講話」では、「14歳で亡くなった同級生の死」から、自分を振り返り、前を向いて生きていこうと書いた「生きるという素晴らしさを…」と題した弁論文を紹介しました。そして、生徒たちに次のことを伝えました。

生きるという素晴らしさ

あなたは、「死にたい」と思った事があるだろうか。私は、辛い時などにそう思う時がある。別に私なんて必要ない。そんなふうに思うことが当たり前になっていた。

去年の秋、私は最愛の友達との別れを経験した。毎日笑顔で、みんなを楽しませてくれた友達。存在感がとても強く、大好きだったその友だちの突然の死は全く信じられなかった。体の中がカラカラになりそうなくらい泣いた。たくさん泣いた。どのくらい泣いたのか分からない。目がすごく腫れていたのは覚えている。

友達が旅立つ日まで、友達の死が受け入れられなかった。棺に入っている友達の顔は笑顔で今にも「おはよう」と、言いそうな素晴らしい顔をしていた。私は友達に「ありがとう」と言いたかった。でも言えなかった。もっと遊びたかった。修学旅行にだって一緒に行きたかった。十四歳でこの世を去った友達は、大人になったら何をしたかったのだろう。もっと楽しい事などしたかっただろうといつも思う。

私は、人生で初めて命の大切さについてすごく考えさせられた。「死にたい」と思っていた私はなぜそんな事を思ったのだろうと後悔した。

今、「死にたい」と思っている人、自ら命を絶とうと考えている人。もしもあなたが本当に死んでしまったら、いったい何人の人が悲しむだろうか。一人？二人？そんな少なくはない。何十人というたくさんの人が悲しむ。死んでしまうと話したくても話せない。遊びたくても遊べない。私の友達のように、生きたくても生きられなかった人がいるのに、あなたは、この世から去る事ができるのだろうか。自ら大切な命を捨てる事ができるのだろうか。自分には必要ないからと言って、自ら命を絶つことができるのだろうか。

私の母が言った。「この世に必要な人間なんて、一人もいない」と。母からそれを聞いてから私は「私も誰かから必要とされているんだ。」と思っている。それから私は、自分なりに生きている。生きている事で友達と話せる。嬉しい事、楽しい事がある。時には

嫌な事、悲しい事だってある。しかし、私はそんな毎日が幸せだ。

「死にたい」と思っている人、自ら命を絶とうと考えている人、命を粗末にしないで生きてほしい。人生は一度しかない。今、生きている時間、一秒一秒を大切に、あなたはあなたらしく生きてほしい。そして、生きるという素晴らしさを感じてほしい。

私はまだ生きて良かった友達の分も、命を無駄にする事なく、生きるという素晴らしさを胸に頑張って生きていく。この先、どんな人生になるか分からない。だけど、素晴らしい未来という時間が待っている。「死にたい」と思っていた私がこんなに生きるという素晴らしさを感じ、成長したのは、最愛の友達との別れと母の言葉があったからだと思う。母と天国の友達に伝えたい。「ありがとう」

○授けられた命を輝かせる

誰もが生きるために「命」を授けられています。しかし命には必ず「限り」があります。その「限り」、与えられた時間は、誰にもわかりません。命を輝かせるためにも（悔いのない人生を送るためにも）「この与えられた時間を大切に生きる」ということです。今、与えられた「この一瞬一瞬」を大切に、そして自分の力の限り（何事にも一生懸命に）、その命の炎を輝かせてほしいと思います。

○共に輝く

人が生きていく上で、「命」の他にもうひとつ大事なことは「心」です。お互いに手を差し延べ合って、一緒に生きていくこと。その中でしか育たない心があります。互いに命を輝かせようとする中で、「人の痛みがわかる」「他者を思いやる」「人のために役立つ」とする「心」を育てていってほしいと願っています。

「日常五心」という言葉があります。「ハイと言えない素直な心」「すみませんという反省の心」「おかげさまでという謙虚な心」「私がいまという感謝の心」を意味しています。皆さん、自分を振り返ってどうでしょうか？この5つの心が満ち溢れる宮中生徒であってほしいです。

君たちには素晴らしい「仲間」がいます。互いに光輝くことのできる「場所」がここにあります。互いに「認め合い」「支え合い」「磨き合う」ことで、個として・集団として大きな成長につながっていくはず。 「みんながリーダー・みんながフォロワー」として、共に前へ進み、共に命を輝かせてほしいと願っています。